

総合計画・都市計画マスタープラン 町民意識調査結果概要

1. 調査の対象等

- (1) 対象：令和2年12月1日現在、18歳以上90歳未満の無作為抽出された町民2,000名
- (2) 実施期間：令和2年12月22日～令和3年2月18日
- (3) 有効回収数：965 [総人口13,470の7.16%]
- (4) 回収率：48.25%
- (5) 信頼レベルと誤差

信頼レベル95%、誤差5%の調査が一般的だが、それを上回る信頼レベル95%、誤差1.6%

- 総人口に対するサンプル数の割合(7.16%)で計算すると、信頼レベル95%、誤差1.6%に必要なサンプル数は928.74(<965)
- 最初のサンプル965でカレーが好きな人が30%いたとすると、サンプルを100回入れ替えた場合に、95回はカレーが好きな人の率が28.4～31.6に収まるということ。

2. 調査結果の概要

(A) 回答者が多かった属性(単純推計で強く表れるので、クロス集計で少数の属性を要把握)

- ・鳩山ニュータウンの持ち家に30年以上在住。
- ・年齢は60歳代以上。
- ・職業は無職。
- ・18歳以上の子供はおらず、夫婦のみか、成人した子供と2世代で居住。
- ・町への愛着が高く、住みやすく、今後も住み続けたいと感じている。
- ・世帯年収は、200万円以上400万円未満。
- ・町外の生活圏は、坂戸、東松山の順。
- ・情報を得る手段(複数選択)は、広報はとやまが圧倒的に多く、次に、議会だより、知人友人家族からの話の順に多い。

(B) 幸福度(今回初めて質問した)

- ・約7割の町民が今幸せと感じている。(大いに感じる25%+少し感じる44%=69%)
- ・幸せを感じていないのは6.8%(全く感じない1.2%+ほとんど感じない5.6%)と僅か。
- ・どちらでもないが15.4%

⇒(幸せ度の)クロス集計

【地区別】

- ・少し感じる+大いに感じるは、鳩ヶ丘(76.5%)、楓ヶ丘(74.4%)、大豆戸(73.1%)地区の順に高い。
- ・大いに感じるは、大豆戸(30.8%)、泉井(30.8%)、鳩ヶ丘(30.6%)、松ヶ丘(30.1%)

の順に高い。
 ※楓ヶ丘は、少し感じるが 55.0%と最多。松ヶ丘は少し感じるが 37.2%

【年齢別】

- ・少し感じる＋大いに感じるでは年齢が上の方が高い傾向。
 (60歳代で 77.0%、50歳代で 70.8%、30歳代で 70.5%、70歳代で 70.2%、
 10歳代で 66.6%、20歳代で 57.8%、40歳代及び80歳代以上で 60%)
- ・大いに感じるは、若者の方が高い傾向。
 (10歳代で 33.3%、60歳代で 30.5%、20歳代で 28.9%、40歳代で 27.4%、
 70歳代で 24.9%、50歳代で 22.0%、30歳代で 18.0%、80歳代以上で 16.2%)
- ・30歳代以降は「少し感じる」が最多。

⇒コメント

- ・幸福実感都市を掲げる東京都内の区の幸せ実感度は 51.6% (大いに感じる 15.9%＋少し感じる 35.7%=51.6%) であり、本町の 69%はこれより 17.4%も高く、町政の方向性が概ね良いことが確認できた。
- ・次のステップとして考えられることは、
 - ・クロス分析により、幸せを感じていない人の要因を把握しフォロー
 - ・クロス分析により、大豆戸、泉井、鳩ヶ丘、松ヶ丘地区の幸せの要因を把握し、他地区へ展開

(C) 分野別実感度 と 今後幸せと感ずるために重要な分野

実感度が高い順	今後あなたが幸せと感ずるために重要な順	分析
1. 暮らしやすい生活環境 2. 健康的な生活 3. 安全・安心 ※1～3の実感度は高い。	1. 環境 2. 健康・福祉 3. 安全・安心 ※1～3の支持率は高い。 ※最も重要との回答の第1位は健康・福祉。	・このままの暮らしが続くことを望んでいると思われる。 (実際、今の暮らしのままが良いという自由記述が散見) ・今幸せと感ずっている人が 69%いるのもこれを裏付けている。 ⇒町の強みであり、現状維持に努める
4. よいまちづくり 5. 子供が健やかに成長 6. 経済的な不安なく、便利な生活 7. 文化やふれあいが充実	4. 土地利用・まちづくり 5. 教育・子育て 6. 産業・労働・活力 7. 文化・人権	・弱点強化として、重点的に取り組む必要がある

⇒分析

分野別実感度と、今後幸せと感ずるために重要な分野が一致している。

⇒コメント

・現行の町政を維持しつつ、弱点を強化していく必要がある。

⇒注

幸せに重要な順は、他自治体では、「安全・安心」が年代を問わずトップ、次に現役世代を中心に「産業」。若い世代で順位の高い「子育て・教育」が、年代が上がるほど「健康」にウェイトが移っていく。

⇒コメント

・本町の、「環境」の重要度が高く「産業」の重要度が低い点は特徴的と言える。
⇒本町で、「健康」の重要度が高く、「子育て」の重要度が低いのは、高齢者が多く、現役世代や子供が少ない構成のためと思われ、子育て施策も必要。

(D) 分野別実感度の評価が高い人（クロス集計結果）

1. 暮らしやすい生活環境だと感じている人	<ul style="list-style-type: none">・女性、10歳代、・NT在住、集合住宅にお住まい・兄弟や子供とお住まい・職業は派遣職員、自営業者の家族
2. 健康的な生活だと感じている人	<ul style="list-style-type: none">・女性、10歳代・70歳代・誰かと一緒に住んでいる（兄弟＞夫婦＞3世代＞親子）・職業は、学生＞家事専業＞自営業者の家族
3. 安全・安心だと感じている人	<ul style="list-style-type: none">・女性、10歳代、竹本・泉井在住、集合住宅にお住まい・兄弟とお住まい、自営業者の家族とお住まい・職業は学生・年収が高いほど高評価
4. よいまちづくりだと感じている人	<ul style="list-style-type: none">・男性・10歳代が高い、30歳代40歳代はどちらでもない方が最多。あまり感じないのは50歳代、30歳代、60歳の順。・泉井、NT、今宿、小用の順。・あまり感じないのは熊井、竹本、石坂、須江の順。・兄弟とお住まい＞夫婦でお住まい＞一人暮らしの順・子供がいる・職業は、会社員・公務員＞主婦＞無職＞学生・集合住宅にお住まい
5. 子供が健やかに成長していると感じている人	<ul style="list-style-type: none">・女性・10歳代が特に高いが、40歳代まで肯定的（高齢になるほど「分からない」の率が高まる）・泉井・高野倉・竹本在住・3世代以上でお住まい＞2世代でお住まい＞・子供がいる・職業は学生・年収800～1千万円の世帯・集合住宅にお住まい
6. 経済的な不安なく、便利な生活だと感じている人	<ul style="list-style-type: none">・女性・10歳代は感じ、20歳～40歳代は苦しく、50歳～70歳代は感じ、80歳代から苦しい。60歳代70歳代は苦しい人も多く、二極化。・泉井・小用・今宿・NT・石坂在住・低いのは奥田・須江・竹本在住・兄弟とお住まい＞夫婦のみでお住まい・子供がいる

	<ul style="list-style-type: none"> ・全く感じないが多い職業は派遣職員 ・年収が多い方が肯定的 ・一戸建て（持ち家）
7. 文化やふれあい が充実していると 感じている人	<ul style="list-style-type: none"> ・女性 ・10歳代は高く、20歳～50歳代までは低く、60歳代以上は改善 ・泉井・熊井・奥田・竹本在住 ・兄弟とお住まい、子供がいる ・職業は、自営業主の家族、家事専業 ・一戸建てにお住まい

⇒分析

女性、10歳代、兄弟や子供とお住まい、自営業者の家族が高評価

⇒コメント

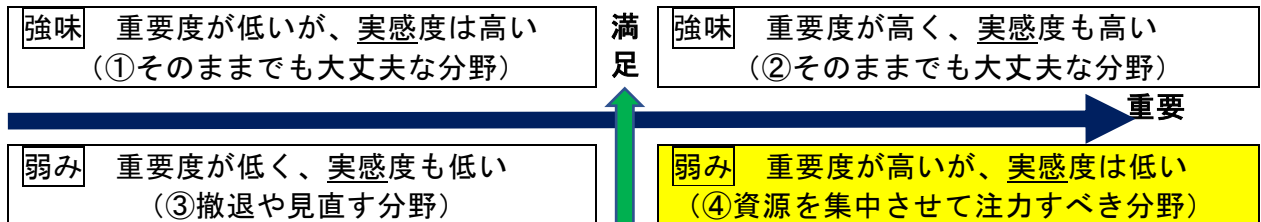
・実感していない年齢層や地域への事業を展開することが考えられる。

⇒注

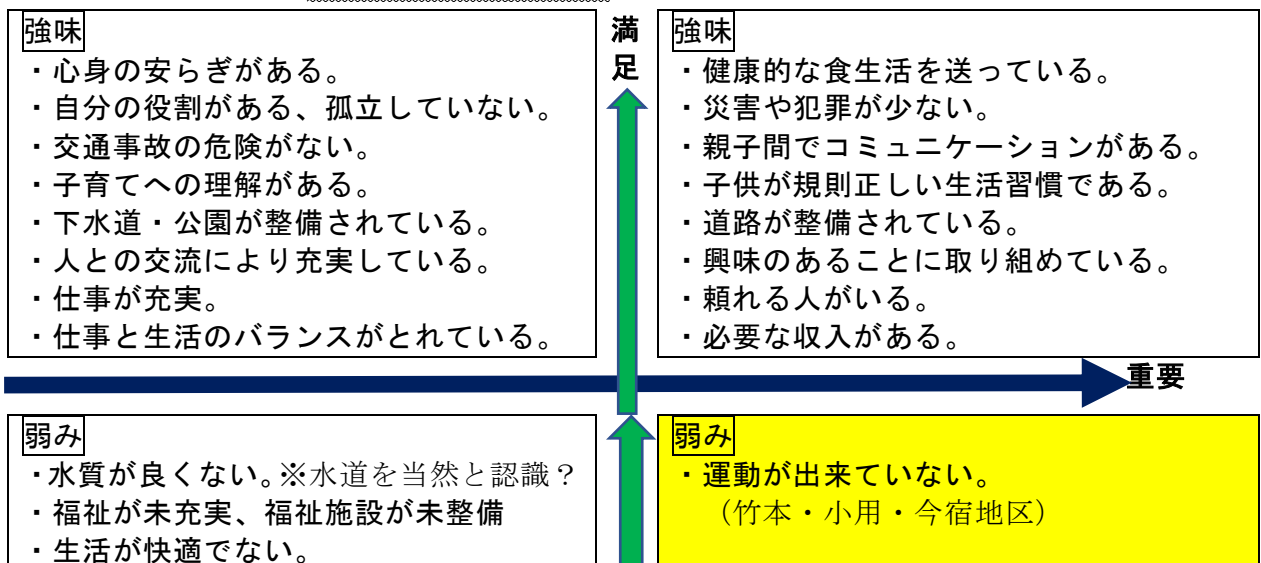
・他の複数の自治体の調査における「幸せを感じやすい人」の共通項は、「女性、専業主婦、学生、会社役員、配偶者有、子供有、高収入、他人とでなく理想の自分と比較する、人とのつながりが強い、健康、生活にゆとりがある、悩みや心配事がない、社会貢献している、ワークライフバランスがとれている」だったので、分析の下線部分は特徴的と言える。

(E) 項目別実感度と重要度

・プロダクトポートフォリオマトリックスにヒントを得た、重要度、実感度マトリックス（重要度と実感度を尺度とした二次元マップ）は、下記のとおりだが、



・アンケートの結果（カッコ内はクロス集計結果）は、下記のとおりだった。



- ・地球環境に配慮した生活でない。
- ・落下物などの危険がある。
- ・困っている人に協力しにくい。
- ・災害時に助け合えない。

弱み

- ・望む子育て環境でない。
(子供がいる世帯、特に未就学児がいる世帯を除き、「どちらでもない」が多い。10歳代でも「どちらでもない」が最多。)
- ・地域に子育てへの理解・協力が無い。
(子供がいる世帯、特に未就学児がいる世帯を除き、「どちらでもない」が多い。10歳代や20歳代は「理解・協力があると感じる」が多い。)

子育てサービス・施設が未充実。

(子供がいる世帯は「充実していると少し感じる」が最多。10歳代や20歳代は肯定的だが、10歳代でも「どちらでもない」が最多。居住年数が長い程、「どちらでもない」が多く、家族がいたり、3世代同居の方が「充実している」と回答)

※子育て世代での評価は低くないが、高齢者が多い母集団のため、身近でない子育て関係の重要度も実感度も低くなりがち。

- ・河川の洪水対策、防災設備が不備
- ・バリアフリー化が不備
- ・文化への誇り、異文化への理解がない
- ・企業や店が元気でない。
- ・訪問したくなる魅力に乏しい

⇒コメント

・「資源を集中させて注力すべき分野」に挙げられている事項について、カッコ内の人を意識した事業に努めることが考えられる。

(F) まちの魅力

自然景観が豊か、静かで心が休まる、地震に強い、治安が良い

⇒コメント

・将来像などに活かす。

(G) まちの魅力に欠ける点

交通が不便、通勤・通学・買い物が不便、働く場や機会が少ない、医療機関や福祉サービスが不足

⇒コメント

・前述のとおり、クロス集計により低評価の属性への対策を検討

(H) 町税減収と高齢化による支出増への対策

- ・医療機関が充実していない。
(奥田・須江・高野倉・熊井・石坂地区)

弱み

- ・買い物が不便
(10歳代・20歳代、高野倉・奥田・須江・泉井地区)
- ・交通が不便
(10歳代・20歳代、熊井・高野倉地区)
- ・災害への備えがない。
(熊井・奥田・今宿・須江地区)
- ・子供に社会生活に必要な力がない
(竹本・石坂地区)
- ・生涯学習環境が整っていない。
(奥田・須江・竹本地区)

- ・「町民サービス水準の見直さざるを得ない」を選択した人が最多（37.6%）の一方で、「行政サービスの水準が下がるのは困る」が次に多かった（31.8%）。
- ・「行政サービスの水準を維持するには町民の負担が必要ですがどれを選択しますか？」の設問については、「サービス提供面での町民参加が最多（64.5%）」で、「税率等の引上げ」は18.9%、「その他」が9.4%いた。
- ・しかし、その他の内訳は町民負担でなく、企業誘致、事業縮小（無駄の削減）、人口増加、議・職員の削減、市町村合併、サービスを選択制に、特産品開発、観光収入、ふるさと納税、循環バス見直しなど。
- ・更なる財源確保としては、企業誘致（57.7%）、収入のある人の移住（19.5%）、ふるさと納税（13.0%）の順に多く、その他は、市町村合併、移住推進、議員・職員の報酬・給料削減、太陽光発電施設建設。

⇒コメント

- ・ サービス提供面での町民参加案を検討する。

【問 28（あなたは 8 年後鳩山町がどのようになっていると幸せに感じますか）のまとめ】

⇒コメント

- ・ 将来像作成に活かす。

1. 自然・住環境に関すること

- ・ 良い意味で変わらない町
- ・ 自然豊かで静かな町
- ・ 美しい街並み、美しい自然が残る里山
- ・ 緑豊かな景観に囲まれ、誰もが健やかに気持ちよく暮らせる町
- ・ ゆったり過ごせ、老いも若きも各々の生活を楽しめる町
- ・ 豊かな自然環境に恵まれ、人間らしい安心して日々の暮らしが出来る環境に恵まれた町
- ・ (⇒クオリティオブライフが高い町)
- ・ ワークライフバランスがとれている町
- ・ 緑が多く、外から人がリフレッシュに来る美しい町
- ・ 都内や近隣から遊びに行ける町
- ・ 風光明媚なりモートワークに適した町
- ・ 歩いてほっとする町
- ・ 豊かな自然が維持され、人々が明るく心豊かに生きられる町
- ・ 豊かな緑や清流のある自然環境のもと若い人が居住を求めて集まってくる町、
- ・ 住みやすい町
- ・ (災害時も) 安心、安全、豊かな環境で生活できる街
- ・ 高齢者にも子育て世代にも住みやすい・暮らしやすい町

2. 高齢者に関すること

- ・ 老後をゆっくり過ごせる町

- ・介護を要しても自宅で過ごせる町
- ・高齢者も元気で暮らせ活発で安全な町
- ・日本一元気な高齢者が多い町

3. 人に関すること

- ・人と人との絆がある町
- ・誰もが協働し、助け合える協力しあえる豊かな町
- ・他からの人々を受け入れる多様性のある町
- ・努力する町民がいる町

4. 子供・若者に関すること

- ・子育てしやすく住むのに良い町
- ・子供の声が聞こえる町
- ・若者にも受け入れられる町
- ・自然と共存しながら子育て世代が伸び伸びと生き生き暮らせる町
- ・未来を任せる子供たちが心豊かに生活し成長していける町

5. 利便性・活気に関すること

- ・交通も買い物も便利な町
- ・適度に賑わいがある豊かな町
- ・便利で福祉が充実した町
- ・活気のある町

6. 町の規模に関すること

- ・小規模ながらキラキラの美しく住みやすい町
- ・小さいながら頑張っている町
- ・少人数でも静かで人情豊かな里山

7. その他に関すること

- ・納税者が増える町

【問 28（それを実現するには行政や町民がどうすればよいと思いますか）のまとめ】

⇒コメント

- ・事業に活かす。

1. 自然・住環境に関すること

- ・自然を楽しめるイベント、自然を生かした教育を行う
- ・安易な開発禁止

- ・工場誘致反対
- ・今のまま、良い意味で変わらない。
- ・自然とアートの融合
- ・自然との交流共存
- ・ESG企業の誘致

⇒コメント

・ESG経営（人権・ワークライフバランス・多様性・情報開示）

2. 高齢者に関すること

- ・心身共に健康（健康維持のためのイベント参加者へポイントの提供）
- ・（無人）移動販売を導入
- ・医療介護の充実、在宅ケア在宅医療、訪問看護、食事配送の充実（⇒終の棲家の位置付）
- ・老人活用ボランティア（遊歩道・遊び場をシニアが整備、健康な老人に除草を任せる）の拡充
- ・70歳以上で働ける場の創出、シルバー世代の収入確保対策、シルバー事業の立ち上げ
- ・高齢者に優しい事業の実施
- ・老人の居場所・メンター創出、老人への、老人のやりがい創出
- ・子供や孫と住めるようにする
- ・老人と若い人との交流事業実施
- ・認知症になっても住めるようにする
- ・専門医の医療機関の誘致
- ・元気で健康で自立した生活ができるように
- ・ウォーキングや軽い運動が出来る施設の整備
- ・安全・安心・福祉に重点を置く。
- ・高齢者向け集合住宅の整備
- ・福祉サービスの向上

3. 人に関すること

- ・行政と住民がともに住み良い町を作っていこうという気持ちを持つ
- ・思いやり感謝協力の心の育成
- ・生き甲斐、充実感の創出
- ・近隣の方とコミュニケーション促進（コミュニティの充実）
- ・町民同士が助け合うようにする。
- ・町民が1年準備する必要があるイベントを実施し、町民同士のつながりが感じられるようにする
- ・町民は広く町民全体の幸せを考えることで自分自身の幸せに繋がることに目覚め、使用料を受益者負担する
- ・自分で努力する
- ・ご近所100円助け合いサポートセンターを作る。

- ・各種テーマでの学習機会を持つ
- ・町民が町を綺麗にする活動をする。
- ・住民が愛着をもてる取組を行う
- ・入り過ぎず遠くから見守る。
- ・何時でも行ける寄合所の整備

4. 子供・若者に関すること

- ・若者視点、若い人が興味を持つことをやる。
- ・大学生シェアハウスを作る。
- ・子供（人々）の個性・自由が尊重されている社会にする。
- ・出生お祝金や出生費用援助制度を作る
- ・おむつ代やミルク代の補助
- ・若い人が住めるマンションを整備（誘致）
- ・ゴルフ場を教育産業基地化
- ・学生に鳩山に住んでもらう
- ・小児科や皮膚科の誘致
- ・プレーパーク・公園の整備
- ・広い公園、児童館、託児所、町立幼稚園の3年化、習い事の充実
- ・（子供の）貧困を無くす

5. 利便性・活気に関すること

- ・上熊井直売所を集客できるようにするとともに、直売所付近にフルーツ狩り、カフェ、レストランを作り人が呼べるように
- ・農村公園内にカフェ
- ・（農村）公園の遊具の整備
- ・空家をカフェや雑貨屋に、休耕地に花を、町民に協力を求める。
- ・マルシェ付近の空きテナントを埋める
- ・IT企業の誘致
- ・チェーン展開しているコーヒーショップ、レストランの誘致、
- ・大型商業施設を誘致し、ショッピングの充実
- ・飲食店の募集
- ・ドラッグストアの誘致
- ・蔦屋誘致
- ・物流企業の誘致
- ・マルシェを他に1、2箇所作り、年齢を問わず町おこしに参加できるようにする。
- ・衣料品店、100円ショップの誘致
- ・店舗の充実
- ・ニュータウン商店街の充実
- ・マルシェのようなものを空き家を活用して他の場所に

- ・各町内会への駐車場整備
- ・休耕地での新規農業に優遇策、鳩山の寒暖差の多い気候に適した農産物の指導、集団農場化してレストラン整備
- ・ニュータウン⇄入西経由北坂戸駅、坂戸駅への路線バス導入、バスよりデマンド
- ・町内に衣類・雑貨店がないのでコモディイダまで週1～2回バスが来て欲しい
- ・バスの最終便の繰り下げ
- ・高坂駅からの深夜の乗合バス
- ・通勤・通学者の補助
- ・交通網の充実
- ・バス増便
- ・循環バスを廃止し、デマンドの台数を増やす。値上げする。
- ・にっさいへの買い物や専門病院に行けるように
- ・デマンドは隣町の医療機関や公民館へも
(川越観光のニュータウン線の、にっさい経由、若葉へ延伸)
- ・川越観光の坂戸行きバスを10分に1本間隔に
- ・バスの早朝夜間の充実
- ・毛呂駅へのバス
- ・ピオニまでの直通便
- ・バス路線・デマンドは費用対効果を(30代女性)
- ・NT内徒歩で便利に生活できるように
- ・コモディイダ坂戸から「とくし丸」が来ているが、もっと価格面サービスが充実した引き売り業者の誘致
- ・7つの分野の実感度を高める
- ・ニュータウンと今宿以外の地域を便利に
- ・オープンガーデン巡りを報奨金を出して実施
- ・町内に働く場が欲しい
- ・空家を解体し町営駐車場にする
- ・病院誘致
- ・ふるさと納税の返礼品の拡大
- ・シンボルを作る
- ・ゴルフ場の利用促進
- ・土地利用の規制緩和を求める。
- ・独居高齢者住宅を買い取り、若者に販売するとともに、一部を集合住宅にし高齢者を集め、ボランティアが手伝う
- ・農産物直売所も参加型のイベントを
- ・規制緩和を求め大規模開発
- ・6次産業の発展
- ・町内で収入が得られる場を作る
- ・地形を生かしたアスレチック

- ・くつろげる場所を作る。
- ・施設・観光ツアー
- ・ゴルフ場の休みの日にゴルフ場を開放
- ・役場の仕事を町民へテレワークで分けて

6. 町の規模に関すること

- ・スマートシティ、AIによる防犯、高齢者の見守り、
- ・収支バランスをとる
- ・身の丈に合った、
- ・鳩山町のみ行政では無理がある。市町村の枠を越えた協力、広域連携、市町村合併
- ・鳩山町は頑張っている。
- ・ムダなこと（人が通らない歩道の整備）に金を使わない
- ・メリハリあるカネの使い方
- ・小さな行政、スリム化
- ・リストラしボランティアが担う
- ・議員数・職員数、特別職・議員・職員報酬を削減
- ・必要のない箱物を処分して身軽になる

7. 移住推進に関すること

- ・水が美味しく広い庭があることのアピール
- ・災害が少ないことをアピールし、被災者に移住を進める
- ・空家の更地化、耐震化の補助をする
- ・親から相続した家に住んでいない子の移住推進
- ・優先付けした予算配分（高齢者支援・税制面での優遇による移住推進）

⇒コメント

・地価が安いのに加え、都市計画税が無く、税が安い町のアピールによる移住推進

- ・住環境の宣伝
- ・企業誘致と誘致企業の従業員の住宅取得に優遇策
- ・テレワークの場としての企業誘致
- ・若者の転入促進
- ・土地が安く、交通も不便ではなく、つくば市より良い環境なのでリモートワークの出来る企業の職員誘致
- ・空家の近隣大学生への貸し出し、食事付きの学生寮を整備
- ・空き地の仲介をする
- ・教育の充実、子育て世代への補助、家賃〔持ち家〕補助、移住補助、出生祝金
- ・他にはない子育て環境をクラウドファンディングで資金を集めて実施
- ・自然環境、災害の少なさ、社会インフラ（下水・道路・公園）が安く得られることをアピール
- ・Uターン推進

- ・大学生の入居の推進

(←住民票を移さない場合が少なくないため、交付税にも税収にも繋がらない?)

- ・ニュータウンをヒルズタウンに改称
- ・NT建築協定を見直す
- ・字内の仕事を減らす
- ・ドッグラン整備
- ・災害・犯罪が少ないことのアピール
- ・住民税が高すぎるので引き下げ

⇒コメント

・鳩山の住民税は標準税率で、市街化区域内に都市計画税を課しておらず、むしろ住民税が安いことをアピール

- ・文化的な催しを行う
- ・人口増加を目指す。
- ・医療の充実

8. その他に関すること

- ・財政収支を重視

(亀井地区は市街化調整区域で住宅が建ちにくい路線バスが空で走っている。新設した学童も利用者が少ない。農業する方も少ない。よって有効活用が必要)

- ・収入確保としては、長期的に企業誘致、短期的にふるさと納税。
- ・特産品開発を行い収入を増やす。
- ・今の鳩山町が好きなので町外からの移住を第一に考えるべきでない。